

(学習指導案の書き方) 第〇学年 算数科学習指導案

指導者(学校名) ○○○○○

(日時・場所の必要なときもある。)

1. 単元 (単元番号) ○ ○ ○ ○ ○

ふつう単元とは、目的追求的な過程を通して学ばせるひとまとまりの教材内容を指し、他に「題目」「題材」という示し方をする教材もある。しかし、「題目」「題材」は、「単元」に比べて、教材のまとまりとして狭義に考えることが多い。算数科では、「1. 図形」「3. たしざん」というように「単元」としてとらえるのがよい。

2. 単元目標 (次の4つに分けて書く。)

- 算数への関心・意欲・態度 (情意面: …のよさがわかる。…しようとする。)
 - ・もともと関心と意欲と態度は、別のものであるから、どれかをとらえて表現すればよい。
- 数学的な考え方
 - ・知識、理解、表現、処理を生み出し、支えているもの。
 - ・「考えさせる目標」「育てる目標」「見方や考え方」「自己学習力」
- 数量や図形についての表現、処理。
 - ・「学ばせる目標」「指導する目標」「教える目標」
 - ・既習内容を使い、子どもたちの手でみつけていく場合もある。
- 数量や図形についての知識、理解。
 - ・「学ばせる目標」「指導する目標」「教える目標」
 - ・用語、用語の意味、定義付けなど。

・「(指導者が) ……させる。」ではなく、「(子どもが) ……する。」というように、子どもサイドの目標にして書く。
・学習全体の柱となる目標を記すのであるが、授業を「基礎的知識・理解・表現・処理」の面と、それを生み出し、支えている「数学的な考え方」の面の二層に構造的にとらえ、情意面を加えて書く。

3. 指導にあたって

- 児童観
 - ・教材に対しての子どもの実態や考え方、構え方等を書く。
 - ・教材に関係する子どもの生活体験や既習事項等についての興味、関心を書く。
- 教材観
 - ・教材の内容を書く。(関心・意欲・態度を育てる内容についても書く。)
 - ・その教材についての指導内容、具体的指導目標(作業目標・達成目標・情意目標等)を書く。
 - ・目標達成に向けてのその教材の位置付け、意義を書く。
 - ・下学年からのつながり、上学年への発展、近い将来への見通しなどを書く。
- 指導観
 - ・教材観、児童観から教材と子どもの実態を相対的に検討し、目的達成への工夫、つまずきを少なくするための学習活動を書く。
 - ・指導者の試みたいこと、つまずきの対する解決策、こうなってほしいという願いなどを書く。
 - ・情意的ねらいも書く。

・単元全体、小単元、1時間の授業について、内容や系統、教材と子どもたちの関わり、学習の方法等を児童観、教材観、指導観の3つの観点から書く。
・明確に3つの観点を示して、書く必要はない。
・内容は、情意面を加えながら、「基礎的知識・理解・表現・処理」「数学的な考え方」についてどうであるかということを書く。

4. 指導計画（全〇〇時間）

	関心・意欲・態度・数学的な考え方 (育てる目標)	知識・理解・表現・処理 (指導する目標)
第1次 (〇時間) 小単元名	○・・・ (関心・意欲・態度についての内容) ○・・・ (数学的な考え方についての内容)	○…………… (知識・理解の内容) ○…………… (表現・処理の内容)
第2次 (〇時間) 小単元名	○・・・ (関心・意欲・態度についての内容) ○・・・ (数学的な考え方についての内容)	○…………… (知識・理解の内容) ○…………… (表現・処理の内容)
第1時	○・・・ (関心・意欲・態度についての内容) ○・・・ (数学的な考え方についての内容)	○…………… (知識・理解の内容) ○…………… (表現・処理の内容)
第2時 (本時)	○・・・ (関心・意欲・態度についての内容) ○・・・ (数学的な考え方についての内容)	○…………… (知識・理解の内容) ○…………… (表現・処理の内容)
第3時	○・・・ (関心・意欲・態度についての内容) ○・・・ (数学的な考え方についての内容)	○…………… (知識・理解の内容) ○…………… (表現・処理の内容)
第3次 (〇時間) 小単元名	○・・・ (関心・意欲・態度についての内容) ○・・・ (数学的な考え方についての内容)	○…………… (知識・理解の内容) ○…………… (表現・処理の内容)

- ・「関心・意欲・態度・数学的な考え方（育てる目標）」と「知識・理解・表現・処理（指導する目標）」をはっきり区別して書く。
- ・どのような「数学的な考え方」に支えられた「知識・理解・表現・処理」であるか、わかるように書く。
- ・単元全体が問題解決学習に、小単元全体が問題解決学習に、そして1時間、1時間が問題解決学習になるよう計画を立てる。
- ・各次や各時の大筋の流れがわかるように記述したい。つまり、子どもたちの理解、考えが次々と深まるように、どのような教材で、どのくらい時間を要して進めるかという手順と時間配分を書く。
- ・指導計画は、綿密に立てる必要がある。
- ・毎時間、略案のような指導計画が立てられれば、なおよい。

5. 本時の目標（単元目標の記述に準ずる。）

- 算数への関心・意欲・態度（**情意面**：・・・のよさがわかる。・・・しようとする。）
 - ・もともと関心と意欲と態度は、別のものであるから、どれかをとらえて表現すればよい。
- 数学的な考え方
 - ・知識、理解、表現、処理を生み出し、支えているもの。
 - ・「考えさせる目標」「育てる目標」「見方や考え方」「自己学習力」
- 数量や図形についての表現、処理。
 - ・「学ばせる目標」「指導する目標」「教える目標」
 - ・既習内容を使い、子どもたちの手でみつけていく場合もある。
- 数量や図形についての知識、理解。
 - ・「学ばせる目標」「指導する目標」「教える目標」
 - ・用語、用語の意味、定義付けなど。

1時間の授業とは、子どもの思考の内部矛盾が刺激によって、揺り動かされながら、ものに対する見方考え方が一段と深められるという一連の活動をいうのであるから、目標は、単なる「記憶させること」「こう考えるのだと押し付けること」で終わってはならない。